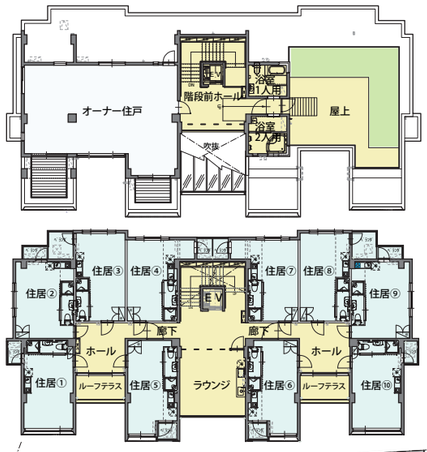
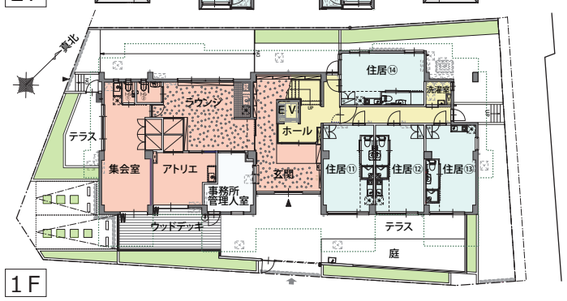
○参加のデザインを
取り入れた設計・施工のプロセス

施主の作成したコラージュを読み取り、それらを元にデザインキーワードを挙げて基本設計を進めました。3 つの案を提示して施主や協力者と検討、意見交換ワークショップを行い荻窪の街並みに配慮したり、1 階にウッドデッキや庭、駐車場を設けて有効なスペースを増やすなど、プランを煮詰めていきました。
施工時には事前リノベーションワークショップや塗装ワークショップなどを行い、利用者参加を通して人との繋がりをつくり出しました。





○コンセプト

地域に開かれた賃貸共同住宅、シェアハウス的なアイデアを持つ新しい高齢者居住という趣旨から、各住戸「私」から共用部分「公」へ段階的に各スペースを配置しています。各住戸は25㎡で、トイレ・洗面・シャワー室をまとめ、ミニキッチンと収納を設けたコンパクトなワンルームとし多様なテナントに対応します。すべてのプランは異なっており、壁の仕上げも変えるなど多様性を持たせています。2階ラウンジは吹抜けとし、ガラスのトップライトで明るい空間です。キッチンを設けており、共同で料理、食事をすることなどが想定されています。

○ 使われ方

1 階のラウンジ・アトリエ・集会室は地域に開放され、子育て支援や保健相談室、チョコっと塾やふらっとお茶会など様々に利用されています。月一回の見学会を行い、地域の方や一般の方に荻窪家族レジデンスを知って頂くと共に、新たな入居者を募っています。2 階のラウンジでは入居者歓迎会やクリスマスパーティーを行うなど、入居者同士がコミュニケーションをとることが出来るシェアハウス的な場となっています。

建築作品部門

まちづくり全般

荻窪家族レジデンス

「地域開放型シェアハウス的多世代賃貸住宅」

- 新しい高齢者居住
- 参加のデザイン
- 利用者参加のワークショップ
- 多世代居住
- シェア
- 地域開放
- 余白のデザイン
- 私に公を入れる
- 第三の居場所
- インフォーマル

応募代表者：連 健夫（むらじ たけお）

連健夫建築研究室

1956年京都市生まれ、東京都立大学大学院修了後、建設会社に10年間勤務。胃の手術がきっかけで91年に渡英、ロンドンにあるAAスクールに入学、AA大学院優等学位取得の後、同校助手・東ロンドン大学非常勤講師・在英日本大使館技術嘱託を経て96年に帰国、有限会社連健夫建築研究室・一級建築士事務所を設立する。設計活動の傍ら、首都大学東京や早稲田大学で非常勤講師を務めるなど教育にも関わっている。また、港区登録まちづくりコンサルタントとしてまちづくりに関わっている。
作品に「はくおう幼稚園おもちゃライブラリー」(栃木県建築景観賞、芦原義信奨励賞、こども環境学会デザイン奨励賞)
著書に『心と対話する建築』『イギリス色の街』など